## 形 式:皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫		
	タイプ			
タイトル情報 論文の英語タイトル		Impact of [18F]fluorodeoxyglucose positron emission tomography on		
		surgical management of melanoma patients.		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	療ガイドライン情報 ガイドラインでの引用有無 1.有り 2.無し ( 1 )		)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ9-8		
		I. システマティック・レビュー/メタアナリシス		
		Ⅱ.1つ以上のランダム化比較試験		
	エビデンスの	Ⅲ. 非ランダム化比較試験		
	レベル分類	IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究)		
	レベル分類	V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ)		
		VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見		
		( IV )		
	Pubmed ID	16323165		
- <del></del>	医中誌 ID			
書誌情報	雑誌名	Br J Surg.		
	雑誌 ID			
	巻	93		
	号	2		
	ページ	243-9		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
	発行年月	2006 Feb		
		氏名	所属機関	
	筆頭著者	Bastiaannet E	University Medical Centre Groningen	
	その他著者 1	Oyen WJ	同上	
	その他著者 2	Meijer S	Free University Medical Centre Amsterdam	
著者情報	その他著者 3	Hoekstra OS	同上	
	その他著者 4	Wobbes T	Radbound University Nijmegen Medical Centre	
	その他著者 5	Jager PL	University Medical Centre Groningen	
	その他著者 6	Hoekstra HJ	同上	
	その他著者 7			
	その他著者 8			
	その他著者 9			
	その他著者 10			

	目的	FDG-PET の治療における有用性を評価する		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	3つのUniversity Medical Centre		
	対象者	1992 年から 2004 年までのあいだに FDG-PET をおこなった 257 人		
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
		1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児		
	対象者情報(年齢)	7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年		
		9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年		
		11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人		
		13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人		
		16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人		
		19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人		
		22.年齢区別せず ( 22 )		
	介入 (要因曝露)	FDG-PET		
	エント゛ホ゜イント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	治療の変更	1.主要 2.副次 3.その他( 1 )	
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
一次研究の8項目	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8		1.主要 2.副次 3.その他( )	
	9		1.主要 2.副次 3.その他( )	
	10		1.主要 2.副次 3.その他( )	
	主な結果	257 人中 56 人 (21.8%) は FDG-F	PET の結果によって Stage が上が	
		った。この 56 人のうち 30 人で治療が変更となった。		
		257 人中 44 人は治療が変更となった。44 人中真陽性が 33 人、偽陽		
		性が3人、真陰性が3人、偽陰性が5人であった。外科治療から全		
		身療法に変更となったケースが多かった。6人が外科両方から無治療		
		(経過観察)となり、5人が無治療(経過観察)から全身療法へ変更		
		となった。		
		FDG-PET は特に stageⅢの患者に	おける転移発見に有用な検査で、	
	結論	外科療法か全身療法かの選択に有足	用である。	
	/## -##			
	備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志		

	エビデンスのレベル分類 ( IV )
レビューワーコメント	